

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本を身に付け、自己実現をめざす子供の育成
- 主体的に取り組み、豊かに表現する子供の育成

加茂名小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  大宮 佳世子	委員 校長:奥村兆男 教頭:仁木茂雄 教務主任:丸岡敬明 1年主任:富田志帆 2年主任:秋田真理 3年主任:川崎亮 4年主任:山本幸穂 5年主任:後藤浩之 6年主任:藤井由紀 特別支援学級主任:紡車多希子 研修主任:田村 理恵 人権教育主事:後藤浩之
	校長  奥村 兆男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の活動を学力向上のために活用し、漢字、計算等の基礎的な知識・技能の習得率は向上してきている。 ●学習したことを日常生活の中で活用できていないため、既習事項を時間が経つと忘れてしまい、定着が不十分である。	・漢字、計算等の基礎的な知識・技能の学年目標習得率を向上することができる。 ・既習事項や問題解決の過程で習得した語彙や表現方法を用いて、自分の考えや思いを表現することができる。 ・進んで読書をし、語彙力をつける。	・漢字や計算の確認テストを定期的実施したり、タブレットのミライシードを活用して反復練習や遊り学習を行ったりする。また、認知トレーニングを取り入れ、学習の下地づくりを行う。 ・朝活の読書タイムを利用して、学級ごとの図書室利用を呼びかけることで家庭での週末読書を推進し、読書の習慣化を図る。	・漢字や計算の確認テストを1学期末に行った結果、ほとんどの学年で目標習得率を達成することができた。2学期も引き続き定期テストを実施し、来学期の授業に生かせるようにする。 ・昨年度よりも、今年度の方が図書室の利用者が増えてきている。	・各学級でミニテストや反復練習を継続して行い、各学年で確認テストの学年目標を達成できた学年が多かった。 ・朝活の読書タイムを利用し学級ごとに図書館の利用を呼びかけたが、利用お知らせカードがうまく回っておらず、あまり活用できなかった。	・年間を通して反復学習や遊り学習等を行うことで、基礎学力の定着を図る。ミライシード、漢字ビンゴや漢字貯金など、子どもたちが楽しみながら反復学習ができるような工夫を行う。 ・引き続き、朝活の読書タイムを利用した図書館利用の呼びかけを行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループなど多様な学習形態での伝え合い活動を通して、自分の考えを伝えようとする意識が育ってきている。 ●必要な情報を選んだり、友達の意見と自分の意見を比較検討したりして、自分の考えを再構築させるまでには育っていない。	・内容を整理しながら文章を読んだり話を聞いたりして、感想や自分の考えをもつことができる。 ・必要な情報を選んだり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えを広げたり比べたりして自分なりに表現することができる。	・メモや付箋、ホワイトボードを活用し、自分の考えたことを書きとめられるようにする。 ・ペアやグループなど多様な学習形態やタブレットを活用した学習活動を取り入れることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・学習の振り返りをノートに書く時間を確保する。	・活動制限もなくなり、以前よりもグループ活動などの多様な学習形態を行うクラスが増えてきた。意見交換を行うことにより、自分の考えを広げることができつつあるが、書くことで意見をまとめることはまだ不十分である。	自分の考えを友達と共有する場を設け、自分の意見を友達に伝えられるようになってきた児童も多い。しかし、相手を意識して伝え方を工夫したり、友達の意見から自分の考えを再構築したりするまでには至らなかった。	他学年との活動や、他校や地域の人の関りのある活動を積極的に授業実践に取り入れることで、相手を意識した伝え方を工夫したり、他の人の意見から自分の意見を再構築したりできるようにしたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提示された課題には真面目に取り組むことができる。また、興味をもつ課題に対して、主体的に取り組む児童が増えてきた。 ●個人差が大きく、手助けが必要な児童が多い。また、自分で計画を立てて課題を解決する力が不十分である。	・新しいことに興味をもったり、自分の課題を見つけたら、主体的に学習に取り組むことができる。 ・自主学習の内容を自分で決めて、主体的に取り組むことができる。	・子供たちが楽しみながら学習できる授業の研究・実践に取り組む。 ・ヒントカードを活用することで、自ら学習に取り組むことができるようにする。 ・自主学習の取り組み方を例示することで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。	・九九やローマ字のヒントカードは利用しているクラスが多いが、他のヒントカードについては利用が少ないので、引き続き利用を呼びかけていく。 ・自主学習は取り組んでいるが、有意義に活用できている児童は少ない。	・自分で課題を設定したり、タブレットを活用して調べ学習を行ったりして子どもたちが主体的に取り組めるような授業展開を行った学級が見られた。 ・自主学習に取り組んだクラスは多いが、活用の幅が少ない。	子どもたちが、「やってみたい」と思えるような楽しい授業実践を考え、その授業実践での学びを家庭学習と連携できるような自主学習の提案を積極的に行う。また、図書室を充実させることにより、調べ学習に利用できるようにする。

令和5年度 学力向上ロードマップ

